

外環の計画のたたき台説明会

開催日	平成 13 年 6 月 12 日 (火)	開始時間 19:00 終了時間 21:00
会場名	練馬区立石神井中学校	
出席者人数	住民側 約 320 人 行政側 国土交通省 関東地方整備局 川崎国道工事事務所 笹森事務所長、伊藤調査第一課長 東京都 都市計画局 成田外かく環状道路担当部長、石橋外かく環状道路担当課長	
配布物	たたき台パンフレット、説明会コメントカード、お知らせ用紙	
議事次第	1. 開会 2. 説明者紹介 3. 挨拶 4. 説明 (スライド) 5. 補足説明 7. 質疑応答	

議 事 録

: 質問 : 意見 : 回答

男性 (練馬区石神井台 3 丁目):

昭和 45 年の凍結はまだ解除されていないだろうが、住民に対する説明を終了した時点で国会等で解除の手続きをするのか。
シールド工法で工事に入った場合、地上に対してどれくらいの幅に影響をもたらすのかについて説明して欲しい。
今のところ凍結状態のままである。今後、説明会や相談会などを行いながら地元の方々と話し合える条件を模索していきたい。今はまだ手続きに入る予定はない。
シールド工法はモグラのようなマシンで横から掘るので、地上は現在のままでも可能である。シールドの径は約 17m であるが、昭和 41 年の都市計画決定の幅になるべく収めようと検討している。

男性 (練馬区石神井台 3 丁目):

「都心に現在どれくらいの車が流入し、その中の何割ぐらいが通過交通なのか」「外環によってその問題点はどれくらい解消されるのか」と言ったような具体的な数字を用いて説明して欲しい
今後、必要性を議論していく上では、きちんと定量的なデータを揃えて公表していきたい。

男性:

原点とはどこか。原点とは都市計画決定以前としなければ、住民との話し合いはスムーズに行かないと思う。
シールド工法にした以上は地上に住んでいる人の不便を避けるように考えてもらわないとシールド工法をとった利益がない。インターチェンジを 5 箇所もつくれば、その地域にあたっている人は全部立ち退かなければならないのではないのか。そのことをはっきりと説明して欲しい。
話し合いとは、それぞれが意見を言うだけでなく、お互いに話が行き来するもので、自分の意見を推進するというのは話し合いにならない。
外環の必要性からこの外環がどうあるべきかを議論することが原点と考える。
今後の議論の中でそれぞれの IC について、設置の有無を検討していく。JCT および IC の部分は開削ボックス構造になり、移転が必要になるという制約があることを理解してほしい。
貴重なご意見として承る。

男性 (練馬区石神井町 7 丁目):

生活道路に車が通り生活を脅かしているのので、外環をきっかけに「産業道路・生活道路・通学路」を明確にして欲しい。
貴重なご意見として承る。

女性 (練馬区石神井台 2 丁目):

地下水系と道路との関係について調査はされているのか。もし、地下水系に重大な影響があるとすれ

ば、この計画は変更されるのか。

この道路をつくるとき、また、自動車が通るときにどれくらいの振動があるのか。

今後現地調査・ボーリング調査を行い、外環による影響・対策等を検討し、環境アセスメントを実施し、その結果を公表していきたい。

シールド工法の施工中に地上への振動の影響があったという事例は聞いていないが、事実で、硬い岩の場合は地上部に振動があるのではないかという話もあります。今後、現地調査等を実施し、工事中も含めて地上部に対する影響について調べ、結果を公表していきたい。

女性（練馬区石神井台2丁目）:

住宅地の地下を通るこれだけ長い距離の高速道路は聞いたことがないが、事例はあるのか。

排気ガスの換気施設が必要と思うが、どれくらいの間隔で何箇所くらい必要か。

シールド工法にしても工事車両等の基地的なものが必要と思われるが何箇所くらい必要なのか。

パリやボストンでの事例はあるが開削ボックス工法である。シールド工法についてはそのような事例がないのが現状であり、今後きちんと地質調査等を行い影響等について検討していきたい。

換気施設は、一般的な事例によると短い所では1～2km、長い所では5kmに1箇所の間隔で設置している。外環においては、今後、検討を行い、結果を公表していきたい。

シールド工法による基地は必要であり、計画が具体化した段階での施工計画の中で検討していきたい。

男性（練馬区石神井台3丁目）:

外環道が環境に悪影響を与えると不安に思うので、「検討します」ではなく、「こういう計画を立てたので安心してください」という具体的な計画を打ち出して欲しい。

バス路線道路もつくれば10車線になるが、10車線と外環だけの6車線では環境に及ぼす影響は明らかに違うのに触れられていない。たたき台では「こういうことも出来ます」と謳っているが、外環をつくる事だけが目的と感じてならない。

ジャンクションやインターチェンジが多いと勾配も多くなり、排ガスが増えそうで心配である。

今回はまだ、たたき台の段階で、現地調査等がまだできていない状況であり、環境に対する影響について数値的に示せない。今後環境に対する影響のアセスメントを実施し、結果を公表していきたい

今回のパンフレットで示されているのは地上部の利用についてのメニュー例である。今後は、地域の状況や意見を聞き、どのような利用計画にしていくなか検討していきたい。

その他、貴重なご意見として承る。

男性（練馬区石神井台2丁目）:

「外環をつくる哲学は何か」ということがきちんと皆に説明できなければ意味がなく、それで住民から心配が出てきているのではないか。

環七・環八の渋滞等の問題の緩和の見通しが数字上できちんと出されるか、分からないのならば分からないとはっきり言い、その上で「この辺は我慢してくれ」「ここだけはお約束ができる」が明確になることが情報公開だと思う。

環境問題についてたたき台に書かれているのは全部抽象的だ。次の機会には数字的に明確にして欲しい。

地下流水帯を分断すれば必ず問題が起き、雨水が地下に潜っていかないという現状があるので、地下浸透型のものをやり、地盤沈下を起こさないようなこともやるという総合的なイメージが明快にわかるようなパンフを作って欲しい。

生活意識を持った女性のパワーを生かし、この説明会にも女性が出てきて説明をしたら少しは和らぐと思う。

今外環を作らなければならない理由を明確にしてからこのようなパンフが出て皆が納得するのであり、このようたたき台を出されると皆、誤解を招き不安になると思う。

現在東京都では、「都市づくりビジョン」の中で将来の都市構造について、東京の都市圏を環状方向に連結させていこうと考えている。東京都は外環を「広域の都市基盤」ということで位置付けている。

その他、貴重なご意見として承る。

男性（練馬区南大泉）:

二酸化炭素は練馬区全体で外環によってどのように変化するのか。

工法によって差はあると思うが総事業費はいくら位かかるのか。

説明会では、回答した後に「その回答でよろしいか」という確認をして欲しい。

CO₂の減少量が練馬区ではどうか等のデータは、現時点では持っていない。今後そういったデータも算出できないか検討していきたい。

工事費については、詳細を行っていないため正確には答えができないが、地下構造でやった千葉の外環の例で、1km当たり1,000億円くらいと見込んでいる。掘削技術の進歩によってコストの削減に努めていきたい。

貴重なご意見として承る。

男性（練馬区石神井台3丁目）:

地震対策、地質調査等はどうなっているのか。

今後どの程度の会合を持って、どのような点がまとまったら工事に着手するのか。賛成・反対意見の集約方法は？

阪神淡路大震災の結果等を見ても、一般的に地下構造の構造物のほうが地震には強いと言われているが、詳細は地質等の現地調査の終わった後検討したい。

今はまだ手続きに入っていない段階であり、情報の共有や意見の把握を行っている段階であることをご理解いただきたい。意見をどう集約し反映していくかは、どのような意見が出るかわからないので、もう少し意見が出てから、考えていきたい。

男性（練馬区石神井台3丁目）:

これ以上東京に道路、特に環状道路はいらないと思う。

貴重なご意見として承る。

男性（練馬区石神井台1丁目）:

計画変更、工事の前に換気装置が実用化されなければ、計画の延期もあり得るのか。

トンネルの脱硝装置は、基礎技術の実験は終了しており、実用化に向けて開発中である。都市計画の変更が行われ、工事がされる段階では、実用化できるようになると考えている。

男性（練馬区石神井町7丁目）:

現在鉄道高架の工事が外環の高架計画が残っているため、途中で切れている状態になっているが、その辺りはどうなのか。

西武池袋線石神井公園以西の立体化については、交差する道路との状況を考慮しながら、都の中で調整を図っていきたい。

（杉並区善福寺2丁目）:

このような会場で出た意見に対し集約する方法があるということでは理解しているのか、またそれはどのような方法なのか。

首都圏全体の計画のイメージをもう少し明確にした上で、外環をどうすべきかを考えたい。東名以南や圏央道など周辺の道路計画についてもお願いしたい。

今回の説明会でお受けしている意見、今日お配りした中のハガキやコメントカードに書いていただいた意見、今まで寄せられた意見、今後行う相談所や地域別の説明会の意見を全て今後公表していきたい。集約方法については初めての試みであり確立していない。方法に関する意見も頂ければと思う。外環の東名以南については、国土開発幹線自動車道の予定路線には指定されているが、都市計画決定されていない。今後、調査を進めたい。

男性（武蔵野市）:

行政の責任者、専門家、有識者、地域住民、特に外環反対連盟との話し合いを早急に、3ヶ月以内に設定するよう要請したい。

大規模公共事業による国家財政の赤字が問題となっている。その中で外環が必要なものなのかどうかを検討することが原点に立ち返るということではないか。

省エネルギーを目指すなら鉄道輸送を優先すべきではないか。

道路建設は人口増大に伴うべきだと思うが、将来人口の減少が予測される中、外環が約35年前の計画を踏襲したものであるのはおかしい。

話し合いの場には、多様な参加者、各行政体の対応等について相談してそのような場を提案していきたい。期限については、3ヶ月以内にできるかは確約できない。

その他、貴重なご意見として承る